令和６年度実施状況調査報告書（スポーツ振興くじ助成）

■活動概要

助成団体	静岡県牧之原市
事業細目名	ホストタウン国際交流
事業名	ホストタウン推進事業費
助成金額	2,061,000 円

■調査内容

令和６年度地方公共団体スポーツ活動助成（ホストタウン国際交流）で静岡県牧之原市が行っている「ホストタウン推進事業費」の実施状況について調査を行いました。

静岡県牧之原市は、2020 年東京オリンピック事前合宿の受け入れをきっかけにアメリカとの関係を築き、令和４年度から USA サーフィンチームとの国際交流事業を行っています。

今年度、スポーツ振興くじ助成金へ申請した理由は、ホストタウン国際交流事業を継続的に実施するにあたり、自己財源とは別の財源を確保するためであり、今年８月にも助成金を活用したサーフィン交流事業が実施されており、その際も USA サーフィンチームが招かれ、牧之原市の静波海岸などで行われました。

今回１１月のホストタウン国際交流事業は、東京オリンピック女子サーフィン金メダリストのカリッサ・ムーア氏とその家族、並びにハワイの中高生含めた約２１名を招き、サーフィンの NTC 競技別強化拠点でもある静波サーフスタジアムにて実施されました。交流事業として、当日参加した牧之原市の 7 名の子どもたちとのサーフィン交流が行われておりました。カリッサ・ムーア氏の助言・技術指導のもと、青空の下、笑顔で交流を楽しむ姿が見られました。

■助成の意義

くじ助成を受けたことで、交流イベントの運営費用や施設借料に充てることができました。その結果、子どもたちの参加費を安価に抑えることができました。また、施設の利用時間も長くできたことで、多くの地域住民の方が参加しやすく、よりイベントを楽しめるようになったとのことです。さらに、滞在日数や参加人数の制限に捉われずに運営が出来たことで、より多くの選手や指導者の招へいが可能になったとのことです。

今回交流に参加した子どもたちにとっては、敷居が高いと思いがちなサーフスタジアムを利用できたことによって、施設だけでなくサーフィン競技自体がより身近に感じられるようになったとのことでした。

■事業効果を高めるための取り組み

事業効果を高める取り組みとしては、牧之原市のホームページや広報誌への掲載、ホストタウン国際交流事業に係るチラシの作成などにより、幅広く周知を行っているとのことです。

また、市が主導し、2020 東京五輪ホストタウンのレガシー創出や継承事業として設立した「まきのはらジュニアズアクションスポーツクラブ」を通じて、市内のサーフ関係の方と連携するこ

とにより、イベントの周知などにも大きな役割を担っているようです。クラブの中にはサーフィンのプロを目指している方もおり、サーフィン以外にも、スケートボードやボルダリング、BMXといった様々なアクションスポーツを体験することができ、USA チームとの交流を活かした取り組みを行っているとのことです。

■所感

今回調査を行った所感としては、2020 年の東京オリンピック事前合宿をきっかけに始まったホストタウン相手国との関係が、この交流事業でさらに深まっている印象を受けました。相手国を招へいするだけではなく、牧之原市からも地元クラブの子どもたちをアメリカへ派遣するなど、双方向の交流が行われているそうです。また牧之原市としても、沿岸部の活性化や交流人口の増加につながるメリットがあり、イベントに参加する子どもたちが実際にオリンピアンと直接触れあうことも貴重な体験となっていると感じました。

今後も、ホストタウン相手国との友好関係を継続していただき、交流を長く継続されることを期待しております。

（令和 6 年 11 月 30 日往査）

（写真）カリッサ・ムーア交流の様子



